

「福津市のいじめの現状」

令和8年度第1回 福津市総合教育会議

令和8年8月6日

「1 いじめ認知件数の状況」

◆ 認知件数の増加

「令和7年度は、市内のいじめ認知件数が令和6年度の約2倍に増加」

- ・ 小学校数校で認知件数が大きく増加しており、学校による積極的な認知が進んでいると考えられる

「重大ないじめだけを認知する」のではなく、児童生徒が感じた小さな嫌な思いも拾い上げることが、早期対応につながる

- ・ 一方で、認知件数の増加が、実際のいじめの増加によるものか、積極的認知の進展によるものかは、継続的な分析が必要
- ・ 不登校数は、いじめ認知件数と反比例する

▶ 積極的認知の進展という側面 ▶ 実態の継続的な分析も必要

H29～R7 いじめ認知件数経年比較

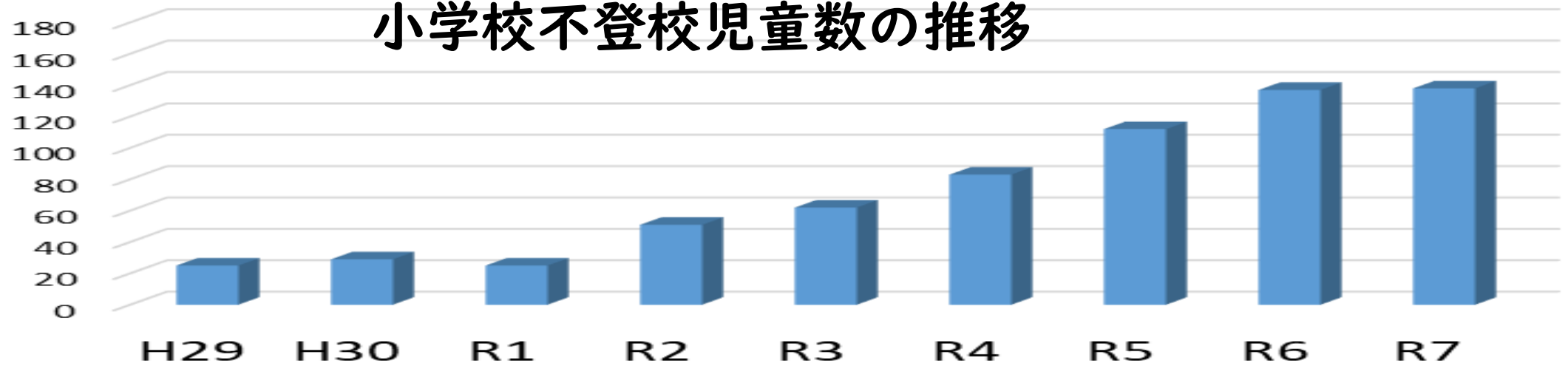
	A校	B校	C校	D校	E校	F校	G校	H校	I校	J校	小学校計	中学校計	小中計
H29	2	3	1	1	1	3	0	17	29	1	11	47	58
H30	2	28	2	5	2	5	1	3	22	10	45	35	80
R1	2	28	35	5	5	5	1	20	11	6	81	37	118
R2	8	15	38	6	121	10	1	26	16	3	199	45	244
R3	7	11	28	10	253	204	1	25	29	13	514	67	581
R4	1	6	102	26	373	110	13	28	14	14	631	56	687
R5	1	4	8	18	304	60	5	91	55	24	400	170	570
R6	5	38	345	32	90	7	22	41	55	25	539	121	660
R7	15	44	269	17	410	328	19	40	25	47	1102	112	1214

R7学校と市教委の取組の成果

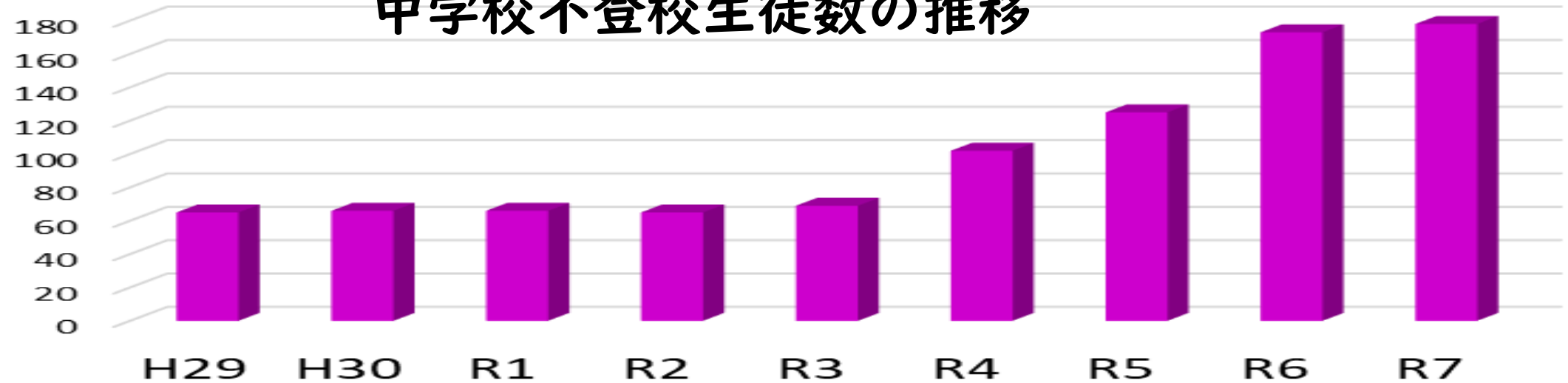
- ①「小さな嫌なこと」を細かく拾い上げて丁寧に対応する
学校が増加→認知件数の増加
- ②対応組織の整備、組織的対応の強化
 - ・「いじめ防止基本方針」は全10校でホームページに掲載（保護者等の閲覧を確認）
- ③いじめ問題と不登校支援の担当者会を分割し、年1回の
担当者会から研修内容を加えて、各々2回に増加

福津市学校の不登校数の推移

小学校不登校児童数の推移



中学校不登校生徒数の推移



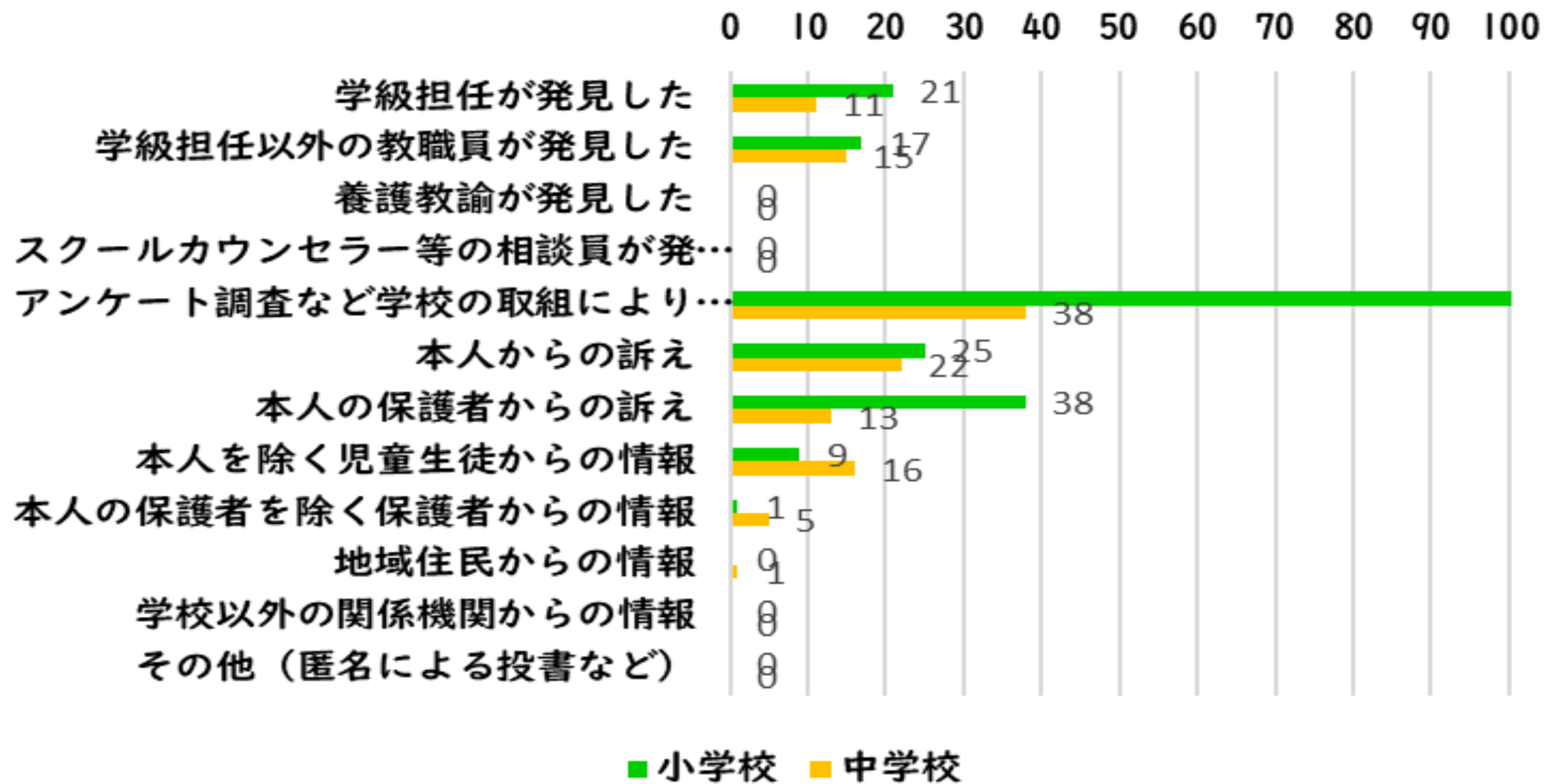
「2 いじめを発見するきっかけ」

◆ 発見の入口

- ・ アンケートによる発見が多く、定期的なアンケートが早期発見の重要な手段となっている
- ・ 本人からの訴え、保護者からの相談も重要な発見経路
- ・ 教職員による日常的な観察や教育相談等を含め、複数の方法で子どもの変化を把握する必要がある
- ・ 子どもが安心して相談できる環境をつくり、表面化しにくいいじめを早期に把握することが重要

▶ アンケート ▶ 本人の訴え ▶ 保護者の相談 ▶ 教職員の気づき ▶ 複数の入口を確保することが重要

いじめ発見のきっかけ



「3 認知されているいじめの主な態様」

◆ いじめは「見え方」が多様

- 「冷やかし・からかい・悪口・脅し・嫌なことを言われる」など、言葉によるいじめが多い
- ・仲間外れ・無視・嫌がらせなど、外から見えにくい形態もある
- ・物を隠す・壊す、叩く・蹴るなど、身体的・物理的な行為も認知されている
- ・SNS・ネット上のいじめは、学校外で発生することも多く、発見・事実確認・関係者の特定・対応が難しい
- ・一見「軽微」に見える事案でも、被害児童生徒の感じ方や継続性を踏まえ、丁寧に対応する必要がある

▶ 言葉 ▶ 仲間外れ・無視 ▶ 物理的行為 ▶ SNS・ネット ▶ 「軽微」に見える段階から丁寧に把握

いじめ態様



「4 いじめの解消と重大事態の状況」

◆ 早期対応が重要

- ・ 認知したいじめについては、解消に向けた対応を進めている
- ・ 一方で、一定期間を経ても解消に至らない事案や、継続的な見守りが必要な事案がある
- ・ いじめが長期化・深刻化すると、児童生徒の心身や学校生活に大きな影響を及ぼす可能性がある

「福津市では4年続けて重大事態が発生しており、重大化を防ぐための早期対応・継続的な支援が重要な課題」

▶ 長期化・深刻化を防ぐ ▶ 重大事態につなげないための継続的な見守り

「5 福津市のいじめ対応における主な課題」

◆ 主な課題

- ① いじめの早期発見：子どもが発する小さなサインを見逃さない仕組みの充実
- ② 初期対応：認知後の情報共有、聴き取り、保護者対応等を迅速かつ適切に行うこと
- ③ SNS・ネットいじめ：学校外で起きる事案への対応力を高めること
- ④ 長期化・深刻化への対応：学校だけでは対応が難しいケースへの支援を充実させること
- ⑤ 不登校との関連：不登校の背景にいじめがないか、継続的かつ丁寧に把握すること

① 早期発見 ② 初動対応 ③ SNS・ネット ④ 長期化・深刻化 ⑤ 不登校との関連 ▶ 「見逃さない」＋「早く動く」＋「継続して支える」

「6 令和8年度に向けた取組の方向」

◆ 令和8年度の方向

「いじめの『見逃し・見落としをしない』ことを基本に、認知を早期対応のスタートラインとする」

- ・ アンケート、教育相談、個人面談等を充実し、児童生徒の不安や悩みを早期に把握する
- ・ 校内研修、職員会議、いじめ防止校内委員会等を通じ、組織的な初動対応を強化する
- ・ 教職員の聴き取り、保護者対応、事後の見守り等の対応力を高める
- ・ SNS・ネットいじめへの対応力を強化し、学校外で起きる問題にも適切に対応する

▶ 見逃し・見落としをしない ▶ アンケート・教育相談・個人面談を充実 ▶ 組織的な初動対応を強化

「7 学校問題対応伴走支援チームについて」

◆ 学校問題対応伴走支援チーム

「令和8年7月に「学校問題対応伴走支援チーム」が発足」

- ・ 学校だけでは対応が難しい問題について、専門職・関係機関等の知見を生かしながら学校を支援する有力な手法の一つ

「ただし、発足したばかりであり現時点では効果や課題を評価・検証できる段階ではない」

- ・ 今後の運用を通じて対応事例や課題を蓄積し、将来的な評価・検証につなげていく

▶ 令和8年7月に発足 ▶ 学校だけでは難しい案件を支援する有力な手法の一つ ▶ 発足直後のため、現時点では評価・検証の段階ではない

「まとめ－福津市のいじめの現状」

◆まとめ

- ・ 認知件数の増加は、積極的な認知が進んでいる結果でもある一方、実態を継続的に分析する必要がある
- ・ いじめの態様は、言葉によるものから、見えにくい仲間外れ、SNS・ネット上のものまで多様化している
- ・ 重大事態や長期化・深刻化を防ぐためには、早期発見と認知後の初動対応が重要
- ・ 学校・教育委員会の組織的な対応力を高め、子どもと保護者が安心して相談できる環境を整える必要がある
- ・ 学校だけでは対応が難しい案件については、発足した学校問題対応伴走支援チームも含め今後の支援体制を検討していく

▶ 認知件数の増加を積極的認知の進展として捉える ▶ 早期発見・早期対応・継続支援を強化 ▶ 子どもと保護者が安心して相談できる環境を整える